



# Executive Interview

エグゼクティブ  
インタビュー

## no.60

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

セレモニアグループ  
株式会社 セレモニア 代表取締役社長

## 鈴木 康伸 様

川崎市で冠婚葬祭、介護、互助会など、人と社会をつなぐセレモニーや日々の暮らしをサポートしているセレモニアグループ。2017年6月に50周年を迎えた事業とその推移を、代表取締役社長の鈴木康伸氏に伺いました。

### ■ いい仕事のためにも、健康第一で

——創業から50年目。3代目社長となって1年半ということですが。

当社の原点は建具屋で、葬儀用の祭壇や棺を取り扱っていた佐野商店という小さな店からでした。1967年に川崎市冠婚葬祭互助会が創立。1980年にセレモニアと社名変更をしました。初代の祖父から伯父へ2代目継承しましたが、伯父には子ども

がいませんでしたし、家業として誰かが継がなければならない状況でしたので、従兄弟姉妹の中で年長の私が引き受けました。実は新卒からの生え抜きではなく、ゴミ処理プラントを作るエンジニアとして働いており、10年ほど前に入社、2015年に社長に就任しました。幼少時代からお世話になった方々、取引先、そして働く従業員に対して、大きな責任がありましたから。

この仕事はゼロから作り出せる楽しさがあります。また仕事を通じて、祖父の代から続くつながりを実感したり、新たなつながりが生まれていく様を目にするのも大きなやりがいになっています。

——事業の方も、長年の積み重ねで多岐に渡っているようですね。

新しく加わったのが介護・福祉サービスの「あっぷる」。冠婚葬祭事業の延長として七五三や成人式、婚礼写真撮影など

を行う「ピュアハート」、調理部門を統合した日本料理・仕出し「ゆいまーる」など、セレモニアグループの事業には多くの柱があります。現在、パートを含め、500人ほどの従業員が働いています。全ては「人の力」で行われている仕事です。だからこそ、人を財産と考えています。

——会社の雰囲気はどう捉えていますか？

明るいと思います。いつも口にしているのは「健康に気をつけて」ということ。健康であってこそ、いい仕事ができるのです。もしインフルエンザなどにかかったとしても、ごまかして出てこないようにと、休みをしっかりと取るように指導しています。現在は、各々がプロとしての判断にて休みを取る形式ですが、将来的には会社の方でもサポートしていきたいです。とりあえず3年ほど前に、全社的に週休2日制にして、人員も増やしました。





# 変化している今だからこそ、 人と地域のつながりを結び直したい。

## ■50年の節目に感じる 時代の移り変わり



——人生の節目である各種セレモニーに関わっていますが、時代の変化を感じた事業は？

50周年ということで、事業に関わる歴史を振り返ってみました。結婚式は高度経済成長時代の大きな式場を使った大々的なものから1980年代後半にはレストランウェディングが流行し、そこから規模が縮小していきました。当社も2000年に式場を閉鎖し、結婚式から離れていきました。今のカップルは価値観が多様化しています。結婚式を挙げずに記念の写真だけという方がいる一方、たくさんの情報を調べ上げ、やりたいことを実現していく結婚式があったりします。資金的にも新郎新婦の両親や祖父母の方々がそれをバックアップしているという構図です。互助会として皆様のご希望にどれだけ応えられるかが我々の課題です。

葬儀の方は家族葬や直葬と、小規模化しています。近親者のみで、会葬者を呼ばない式が増えました。この点に関しては、個人的に「もう少し考え直してもいいのでは」と思っています。従来、葬儀というのは家族とのお別れの場であり、地域の皆さんへの発表の場であったはずですが。地域とのつながりが薄れた今、そういったことが失われつつあるのがとても寂しいのです。

——川崎の地域性はこういったものでしょう？

長く住んでいる方よりも、地方から来た方が多いようですし、引っ越して来た方々

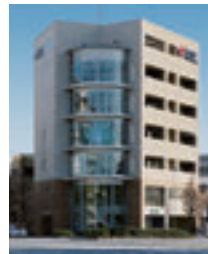
も出入りが激しいと感じます。親と住んでいない方が多く、地域とのつながりが、その分薄くなっています。町内会の祭りなども神輿を担ぐ人手が減少しているので、当社でできることをお手伝いしています。一人暮らしや核家族の家庭で集合住宅にお住いの方は、町内会があることも知らなかったりしますね。

——つながりが薄くなったと実感しますか？

葬儀の簡略化は時代の流れかもしれませんが、今の方々は親世代のつながりを断ち切りたいという気持ちがある気がします。そこに怖さを感じてしまいます。我々は互助会設立時をはじめ、地域や関連業者の方達、従業員など、周囲の人たちに支えられてきました。人は誰も亡くなるものですし、お別れは昔のようにきちんとしたい。そのお手伝いをしたいのです。

——互助会の理念である「相互扶助」についての思いをお聞かせください。

お互いが助け合うという相互扶助精神がここにあります。祖父母の代に創立したのですが、祖父が立ち上げに奔走する中、祖母がしっかり佐野商店の事業を支えたからこそ、今があると思っています。自分よりも他者を気遣う「利他の心」を持った人で、孫の私にとって



## 株式会社 セレモニア

〒210-0852  
神奈川県川崎市川崎区鋼管通1-1-1  
TEL:044-328-0146  
FAX:044-366-1748  
<http://www.ceremonia.co.jp/>



も優しい祖母でした。着物好きな人でもあったので、当社の衣装部はその精神を引き継いでいるかもしれません。今、振袖をドレス風に着付けて写真を撮るというサービスを行っています。

——50年の節目に何を思いますか？

冠婚葬祭の形は時代とともに変わっていきますが、今後を考えるにしても「不易流行」で原点に立ち返って考えて行こうと思っています。そして地域、人とのつながり。冠婚葬祭を通じて、いろいろな人とつながれる仕事ですし、つながりを大切にしてきたからこそ50年間やってこられたのですから、これからも大切にしていこうと思っています。一人で何でもできる時代ではありますが、「関係ない」と断ち切られたり、ほどけかけたつながりも、できるだけ結び直していきたいと思います。

## <インタビューを終えて>

東京でお生まれになり、3歳から川崎に転居。現在45歳の鈴木氏は、光化学スモッグ等を体験した世代です。そのせいか、ときどき無性にきれいな空気や緑を感じたくなるとか。趣味はゴルフで、自然豊かなゴルフ場で過ごす時間が好きだと語っていただきました。真冬や真夏などは避け、多くて月2回程度だという貴重なリフレッシュタイムは、仕事への活力になっているようです。